

群 教 セ	G02 - 02
	平27.257集
	社会 - 小

# 歴史的事象について考えたことを 多面的・多角的に表現する児童の育成

— 思考を整理していくノートの活用を通して —

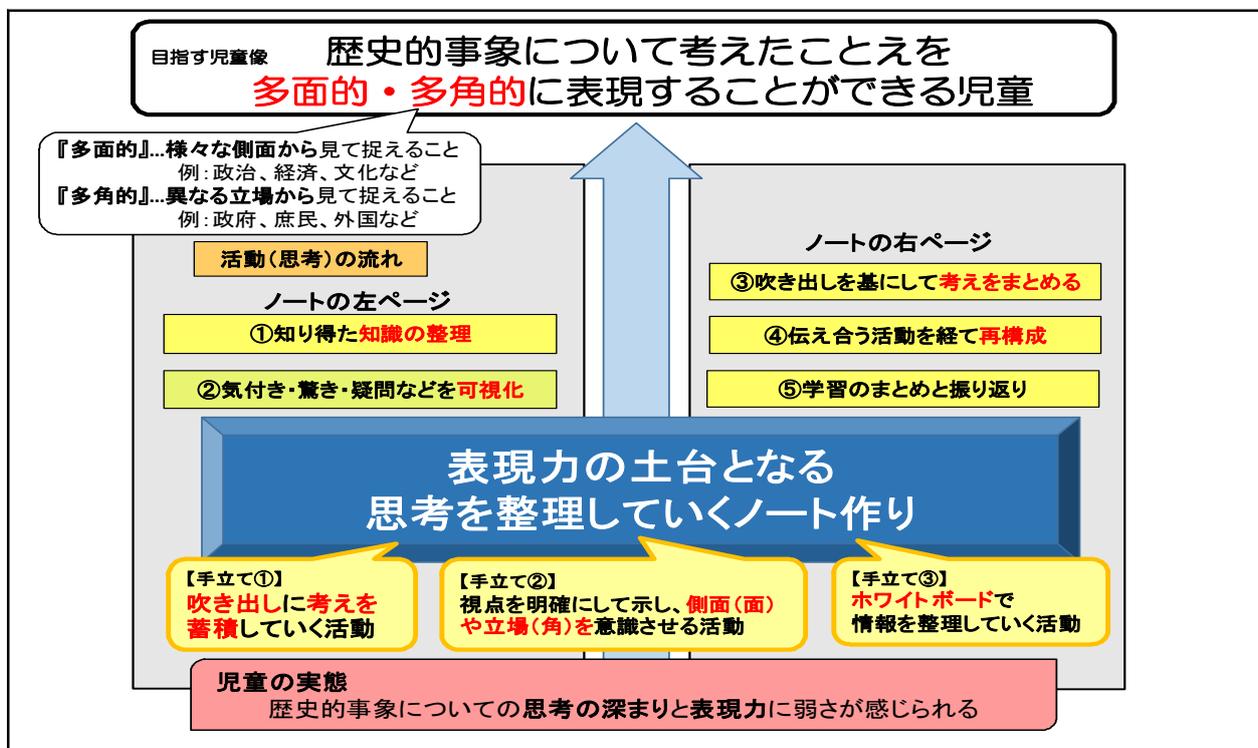
特別研修員 佐藤 淳

## I 研究テーマ設定の理由

学習指導要領解説社会編では、社会科における各学年の目標に、考えたことを表現する力を育てるようにすることが盛り込まれている。さらに改善の基本方針の具体的事項には、考えたことを自分の言葉でまとめ、伝え合う活動やお互いの考えを深めていく学習の充実を一層重視することが明記されている。本県においても、平成23年2月のぐんまの子ども基礎・基本習得状況調査で「考えたことを表現する力」に課題があることが明らかになり、はばたく群馬の指導プランでは「社会生活や現代社会の課題とその解決策を考えること」を社会科の課題の一つとして位置付けている。本学級の児童は、歴史的事象について考える基礎的・基本的な知識を理解したり、資料から必要な情報を選んで読み取ったりする力を身に付けてきている。しかし、思考の深まりに関しては、伝え合う活動を取り入れても、自他の考えの相違点に気づき、お互いのよさを生かしていない。結果として思考の深まりを実感したり、学習課題を自らの力で解決したりする充実感を得ることができていない。思考を十分に深められない授業で終わる原因としては、ノートに学習内容が効果的に整理されておらず、考えたことを表現するための土台として機能していないことがあると考えられる。そこで、本研究では歴史的事象を多面的・多角的に捉え、思考を整理していくノート作りを行うことで、自らの考えをまとめる力や表現する力を育成することが大切であると考え、本主題を設定した。

## II 研究内容

### 1 研究構想図



## 2 授業改善に向けた手立て

### (1)実践1「3人の武将と天下統一」

本時のねらいにせまるために、次の二つを手立てとして実践を行った。

- ①知り得た知識と自分の考えをノートに整理・蓄積し、構成していく活動
- ②ノートを活用して考えたことを伝え合う活動を通して、自らの考えを再構成する活動

資料から得た知識をもとに生まれた気付き・驚き・疑問などを吹き出しに記述したことや、ノートを見開き2ページにして学習の流れを見やすく構造化したことにより、児童は自分の考えを整理し、自分の考えを表現することにした。しかし、吹き出しに書く内容が広がりすぎてしまい、ねらいからそれてしまう児童もいたため、その都度本時のめあてを確認させ、必要な表現か考えさせた。また、再構成の場面では、安易に他者の意見に合わせてしまう児童が見られたため、考えを大きく修正する場合には、ノートのどの部分を根拠としたのか分かるように赤線を引かせ、自信を持たせるようにした。

### (2)実践2「明治の国づくりを進めた人々」

実践1を踏まえて、実践2では手立てを次のように改善して実践を行った。

- ①知り得た知識とそれに対する自分の考え（気付き・驚き・疑問など）をノートに「吹き出し」で整理し、考えをまとめる段階で活用しやすいようにする活動
- ②多面的・多角的に捉えるための視点（面…側面、角…立場）を意識させる活動
- ③「ホワイトボード」に書かれた他者の意見から異なる考えに気付いたり、自分の考えに他の意見を追加したりしていく活動を通して、ノートに新たな自分の考えを表現する活動

吹き出しを書かせる際に、多面的（政治、外交、軍事など）・多角的（政府、庶民、外国など）に捉えるための視点を示したことで、ねらいに関係のない内容については考えなくなった。また、ホワイトボードに自分の考えを書き込んで掲示し、他者の考えに触れることができるようにした。これにより、児童が多面的・多角的に考えられるようにした。しかし、再構成する際に自らの考えの根拠をはっきり示せない児童も見られたため、ノートを振り返って自分の考えの根拠がどこにあるのか確認する活動を付け足した。

## Ⅲ 研究のまとめ

### 1 成果

- 歴史的事象に対する素朴な疑問や驚きを吹き出しの形でノートに蓄積をしていったことで、児童はノートを読み返すことを通して、活動ごとの自分の思考の変化や深まりを実感することができるようになった。
- 歴史的事象について様々な側面や立場の違いを意識できるよう吹き出しで整理したことにより、児童は多面的・多角的に捉え、抵抗感なくそれぞれの立場に立って考えたり、場面を想像して表現したりすることができるようになった。
- ホワイトボードに考えたことを表現する活動や意見を伝え合う活動を通して、児童は他者の意見から異なる考えに触れたり、またそれをどのように生かしていくかについて考えたりする姿が見られ、より良い記述内容になるように自分の考えを再構成する活動に取り組むことができた。

### 2 課題

- 知り得た知識や気付きを整理し、自分の考えとして表現するには、多くの資料や情報の中から効果的な根拠を選んで文章を構成していく必要がある。
- 多面的・多角的に考えさせるためには、日頃から指導者が歴史的事象の持つ面（側面）や角（立場）について意識し、児童が考えやすい視点に置き換えてノートに蓄積していくことが大切である。

## <授業実践>

### 実践 1

#### 1 単元名 「3人の武将と天下統一」(第6学年・1学期)

#### 2 本単元及び本時について

本単元は織田信長・豊臣秀吉が全国を統一した後、徳川家康によって江戸幕府が開かれて身分制度が確立し、武士による政治が安定したことが分かるようにすることをねらいとしている。具体的な内容としては、織田信長が短い期間に領土を拡大したことや、豊臣秀吉による検地や刀狩りなどの政策について調べ、戦国の世が統一されていく様子が分かるようにする。また、徳川家康が関ヶ原の戦いに勝利を収め、江戸に幕府を開いたことを調べ、江戸幕府による政治が始まったことが分かるようにする。

本時では、その中でも織田信長がどのようにして天下統一を目指したのか教科書や資料集を活用して調べるとともに、天下統一のための具体的な政策とねらいについて自分の考えを表現する。

#### 3 授業の実際

##### (1) 自分の考えを蓄積していくための吹き出し

本時の活動では、社会科資料集と配布資料をもとに信長の主な三つの政策について確認し、自分の考え(気付き・驚き・疑問など)を吹き出しに書く活動に取り組んだ。右の図1にある児童の記述からは、信長について、単元の学習を始める前に予想していた武器の調達(軍事面)以外の文化面や情報面などについても政策が及んでいたことに気付いたことが分かる。

本研究における吹き出しの役割は、資料を読んで気付いたことを、端的に自分の言葉で書き出してその後の活動で自分の考えを表現する際の拠り所にするものである。児童は資料を読み取って事実に気付いたり、それに対する意見を持ったりすることができても、考えをまとめて表現する活動にうまく繋がらない様子が見られた。そのような時に吹き出しを見ることで、資料からどのようなことに気付きや疑問を持ったら良いのかを確認し、表現する活動に生かすことができるようになった。

また、自由な形で吹き出しに記述することで普段の授業では表現しにくかった疑問や、指導者が今まで把握することのできていなかった気付きもノートに蓄積されていくようになった。右の図2は、織田信長の三つの主要な政策について調べた後に児童が作成した吹き出しの抜粋である。信長のアイデアに対する関心や、商人の立場に立った意見などが記されていることが分かる。

このように、児童は吹き出しを使いながら同じ歴史的事象に対しても立場が変われば捉え方が異なることに気付くことができた。

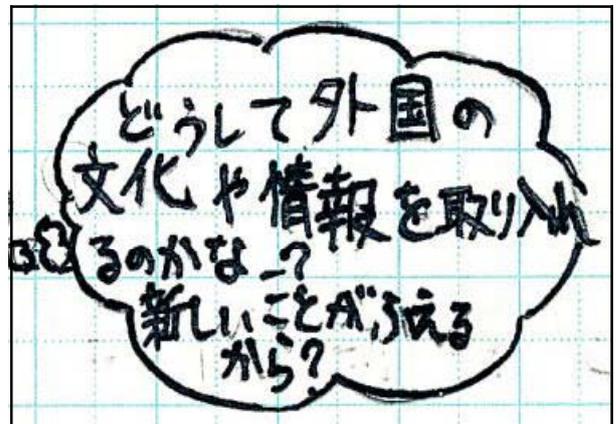


図1 本時で児童が記述した吹き出し

##### ○ 楽市・楽座について

- ・税金をなくしちゃったの!?
- (アイデアに驚き、関心を持っている)
- ・信長はだれでも自由に商売できるようにしたんだね。
- (資料の内容について正確に理解している)
- ・だれでも商売ができてもうかるのってすごいことだ。
- (強い驚きを持っている)
- ・市場に税金をかけるのをやめてしまって大丈夫なのかな?
- (政策に対して疑問を持っている)
- ・自由な商売ならやる気が出るね!
- (商人の立場になって考えている)

図2 児童が記述した吹き出しと(教師の考察)

## (2) 自分の考えを再構成する活動

吹き出しを使って蓄積した自分の気付きを読み返し、その中からポイントを絞って自分の考えを記述した。その後、3人組に分かれて小グループでの意見交換を行った。意見交換では、自分にはなかった別の考えや自分の考えより良いと感じた事項を、右の図3の中段にあるように、**図**の印を付けてノートに追加していった。

この活動では、意見交換を通して考えに広がりを持たせ、信長の政策について捉え直すことをねらった。意見交換によって自らの考えをもう一度練り直した児童は、右の図3の下段4行のように「外国の文化や情報を取り入れること」や「キリスト教の保護」についても重要であることに気付いてまとめを記述した。

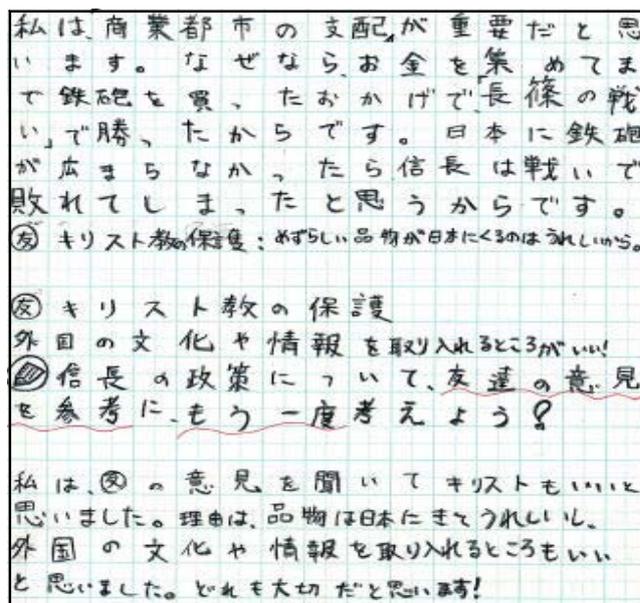


図3 意見交換をし再構成を行ったノート

- S1: 私はキリスト教の保護が一番重要な政策だと思います。なぜなら鉄砲だけでなく珍しい品物が手に入ることはうれしいことだと考えたからです。
- S2: 僕もキリスト教の保護が大切だと思いました。理由は少し違って、キリスト教が入ってくると一緒に外国の文化や情報を取り入れることができるのは、キリスト教を認めていた信長にしかできないことだと思ったからです。

### 児童が意見交換を行っていたグループの様子

上の意見交換では、キリスト教の保護という政策について当初児童が考えていた「商業都市を支配してお金を集め、鉄砲をそろえたから長篠の戦いに勝てた…つまり天下統一に近づいた。」という商業や軍事的な側面に加え、下線部のようにキリスト教の広まりとともにもたらされる外国文化の価値の持つ可能性や情報の持つ力について新たな考えに気付くきっかけとなったことがわかる。

## 4 考察

### ○ 手立て①「知り得た知識と自分の考えをノートに整理・蓄積し、構成していく活動」について

考えを蓄積していく際に吹き出しの形式をとったことで活発に書き出しをすることができ、自分の考えをノートに整理することができたと考えられる。今回の実践で記述した吹き出しの数は、最も多かった児童は六つ、最も少なかった児童は二つであり、平均すると三〜四つ程度であった。実践後に行った意識調査から、普段は考えを発表することに抵抗がある児童も、吹き出しを使うことで自分の考えを表すことに対して「楽しい」「集中できる」などの満足感を記述していた。また、たくさんの吹き出しを書くことができた児童からは、一つの事象に対して「いくつもの考え方ができることに初めて気が付いた」といった感想が出された。

### ○ 手立て②「ノートを活用して考えたことを伝え合う活動を通じ、考えを再構成する活動」について

全ての児童が自分の考えを発表し、それをもとに自分の考えを再構成することができた。そしてキリスト教保護のよさに気付いたことで、「南蛮貿易のおかげで鉄砲(火薬)を手に入れることができ、そのおかげで長篠の合戦に勝利することができたから」など、ホワイトボードを活用して自分なりの理由を追加して伝え合う活動に取り組むことができた。しかし、その後の交流活動で得た情報をどのように生かし、再構成すれば良いか分からなくなってしまいう児童が見られた。

## 実践2

### 1 単元名 「明治の国づくりを進めた人々」(第6学年・2学期)

#### 2 本単元及び本時について

本単元は幕末から明治にかけての様々な歴史的事象について調べることを通して、日本が欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことや、富国強兵を推し進めて国力を充実させることと並行して不平等条約を改正し、国際的地位の向上を目指したことが分かるようにすることをねらいとしている。具体的な内容としては、大久保利通や伊藤博文のエピソードや資料をもとに明治政府の諸改革について調べ、欧米文化を取り入れながら近代化を進めたことが分かるようにする。

本時では、大日本帝国憲法が天皇に強い主権があることや、当時日本が様々な形で条約改正を目指していたことなどについての知識をまとめ、伊藤博文の目指した国づくりについて根拠を明らかにして自分の考えを表現する。

#### 3 授業の実際

##### (1) 多面的・多角的に気付きや考えを蓄積していくノートについて

ここでは、児童に考えさせたい社会的事象に対して、児童に多面的・多角的に気付きや疑問を持たせ、蓄積させるために側面(政治・経済・文化・外交など)と立場(政府・庶民・武士・外国など)をカードにして掲示し、児童が歴史的事象の側面や立場の違いに視点を当てながらノートに吹き出しを蓄積していく際に活用できるようにした。吹き出しを作成する際には、可能な限り自分がどの立場や側面を意識したのか後で確認できるように吹き出しに添えるようにした。右の図4では、西南戦争に対して抱いた疑問を庶民・武士(士族)・天皇そして学習している自分自身の立場で捉えて記述している。

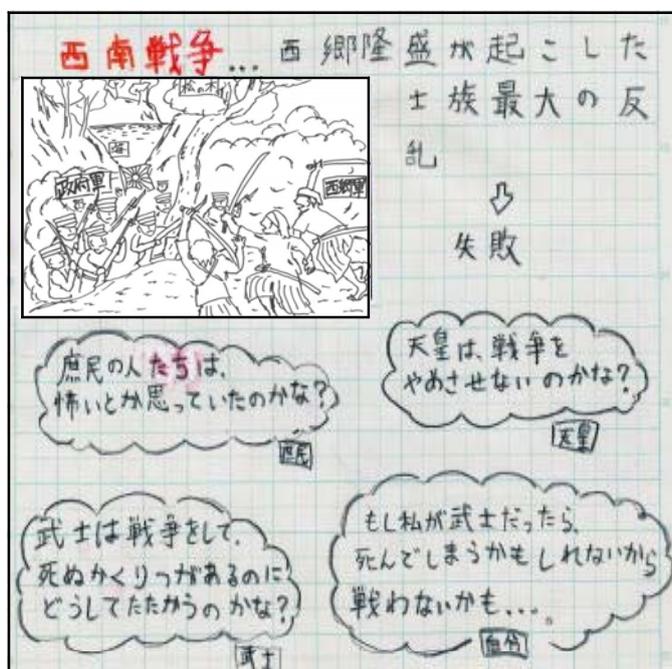


図4 立場の違いを意識した活動例

##### (2) ねらいに沿った視点を決めて記述する吹き出しについて

児童が吹き出しに書く内容が広がりすぎて本時のねらいからそれてしまうことがないように、単元全体を見通して、考えさせたい内容に関わりの深い歴史的事象について想起させたり、新たな資料を読み取らせたりするようにした。

例えば右の図5にあるように、授業では既習内容の振り返りや活用を行いながら当時の日本が置かれていた立場について意識

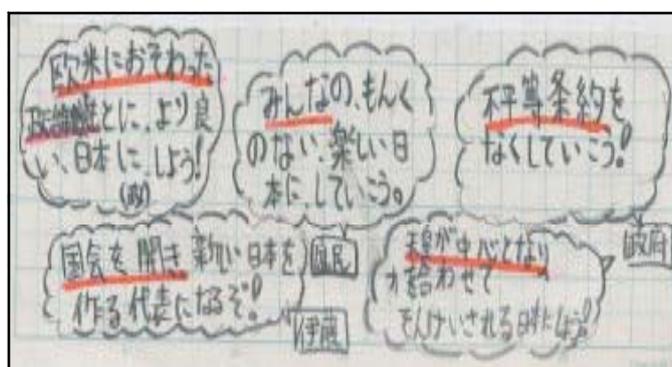


図5 視点を決めて記述した吹き出し

(伊藤博文の目指した国づくりへの思い)

を向けさせるとともに、大日本帝国憲法の要点について調べる活動に取り組んだ。具体的には伊藤博文が岩倉使節団の主要メンバーとして欧米の政治制度について学んだこと、ドイツの皇帝に権力を集中させた憲法や議会の仕組みについて学んだことを生かし新しい日本の国づくりを目指したことを取り上げた。その結果、児童は上の図5のように考えさせたい内容に関係する吹き出しを記述することができた。

### (3) ホワイトボードの活用について

ホワイトボードに吹き出しの中から意見を選び黒板に掲示した。そして児童の意見を引き出しながら欧米化、天皇主権、不平等条約の改正による立場の改善などのグループに分けて学級全体で確認した。全体でグルーピングして概念化しながら歴史的事象についてまとめることで、多面的・多角的に捉えていることを確認し、身に付けさせたい知識や考え方について整理した。

右の図6は、抽出児童が最初にホワイトボードに書いた記述内容(上段)、蓄積した吹き出しや全体で確認した内容をもとにした段階での記述内容(中段)、そして伝え合う活動を通して新たに自分の考えを再構成した後の記述内容(下段)である。

自分の考えを持った段階における記述内容(中段)には、グルーピングで取り上げた不平等条約についての考えを根拠に挙げている。そして(下段)の再構成した記述内容では、伝え合う活動において他者から出された「欧米に認められたい」という考えや「天皇中心の強い国」という考え、さらに不平等条約についても「取り下げる」という表現を新たに用いて考えを整理して表現している。

## 4 考察

### ○ 吹き出しを用いて社会的事象を多面的・多角的に捉えることについて

実践後に行ったアンケートでは、「多面的・多角的に捉えることを意識したことで、歴史の学習がより楽しくなった」と全ての児童が答えている。これは児童が吹き出しに記述する中で、歴史上の人物やそれぞれの時代のそれぞれの立場の人々の気持ちになって考えることに楽しみを見出し、自分自身がその時代、その場面に立ち会っている感覚で気付き・驚き・疑問を持つことができるようになったからであると考えられる。また、児童は自分の考えが様々な側面や立場を捉えることで広がっていくことを実感しながら活動に取り組むことができた。さらに、自分の気付きをその後の表現に生かすという点では、普段発言することが少ない児童や自分の考えを文章化することに抵抗感のある児童も、吹き出しを読み返すことで、自分の思考の変化や深まりを実感することができたと考えられる。

### ○ ホワイトボードを活用し、ノートに整理した内容をもとに自分の考えを再構成する活動について

ホワイトボードを活用し、他者の意見から異なる考えに気付いたり、他の意見を追加したりして自らの考えを再構成する活動で、児童からは、「自分の気が付かなかった意見を知ることができた」「みんな学習している雰囲気が高まった」といった感想が得られた。ホワイトボードを活用することによって、思考を整理して端的な文章で記述する力を高めたり、学級全体で再構成に必要な言葉を導くために意見をグループ化したりする力を伸ばすことができた。アンケートでは、「短い言葉で根拠や理由を示す力や、他者の考えと比較する力が身に付いた」と答えた児童が多く、「伝え合う活動を通して自分の考えが深まった」と感じた児童も全体の半数以上いた。ホワイトボードの活用を取り入れた思考活動を積極的に取り入れることで、根拠を捉えて文章を構成し、多面的・多角的な表現につなげていくことができると考えられる。

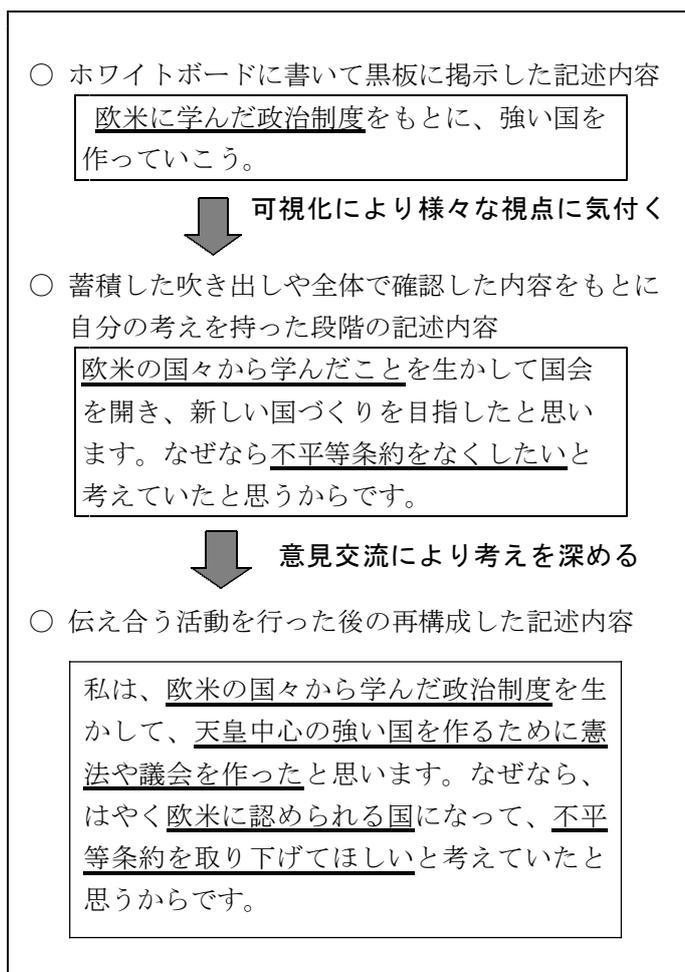


図6 抽出児童の思考の流れ